

MICE関連データ

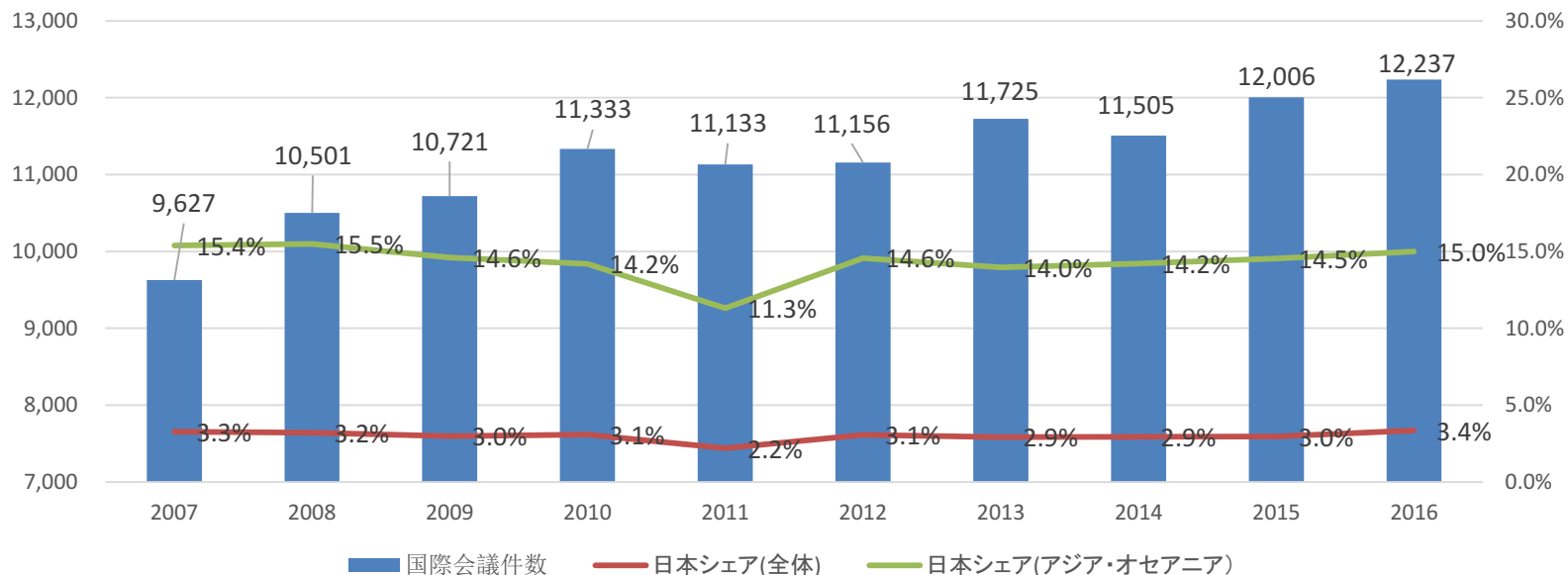
第2回 特定複合観光施設（I R）に関する有識者懇談会

平成30年8月30日

北海道経済部観光局

1 国際会議の開催の状況

(1) 世界における国際会議の開催件数の推移と日本のシェア

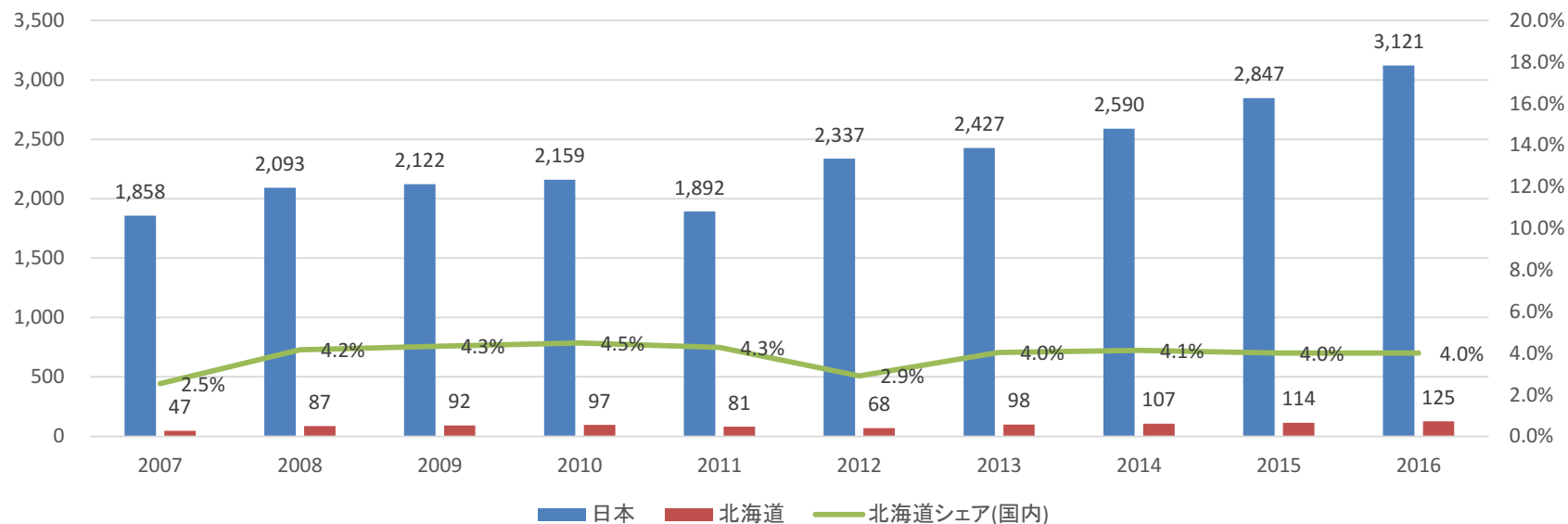


- ・ 世界で開催される国際会議件数は過去10年で1.3倍に増加
- ・ 日本のシェア 対世界2.2%～3.4%、対アジア・オセアニアでは11.3～15.5%で推移

ICCA国際会議統計の選定基準

- ・ 参加者総数：50名以上
- ・ 開催期間：定期的で開催（1回のみ開催した会議は除外）
- ・ 開催国について：日本を含む3カ国以上で会議のローテーションがある。
- ・ 政府系会議、国連主催の会議は除外

(2) 日本・北海道における国際会議の開催実績推移



- ・ 日本で開催される国際会議件数は過去10年で1.7倍に増加
- ・ 日本における北海道のシェア 2007年比増加しているものの、近年は横ばい傾向

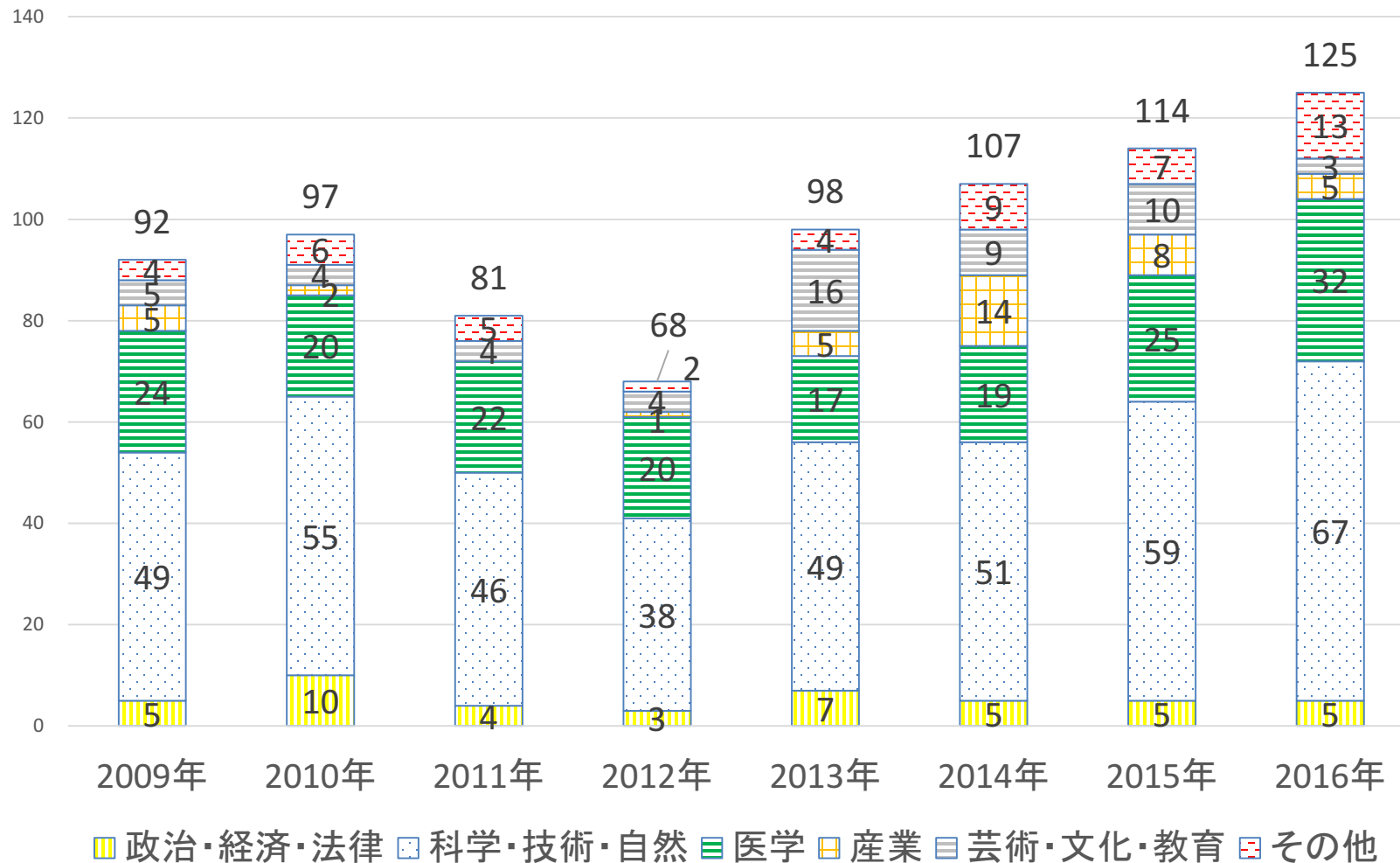
JNTOの国際会議統計の選定基準

- ・ 参加者総数：50名以上
- ・ 開催国について：日本を含む3カ国以上
- ・ 主催者：「国際機関・国際団体」または「国家機関・国内団体」
(特定の企業の利益を追求することを目的とした会議)の主催者を除く全てが対象。)

JNTO国際会議統計から北海道作成

*国際会議件数とは計上基準が違うため単純に比較はできない

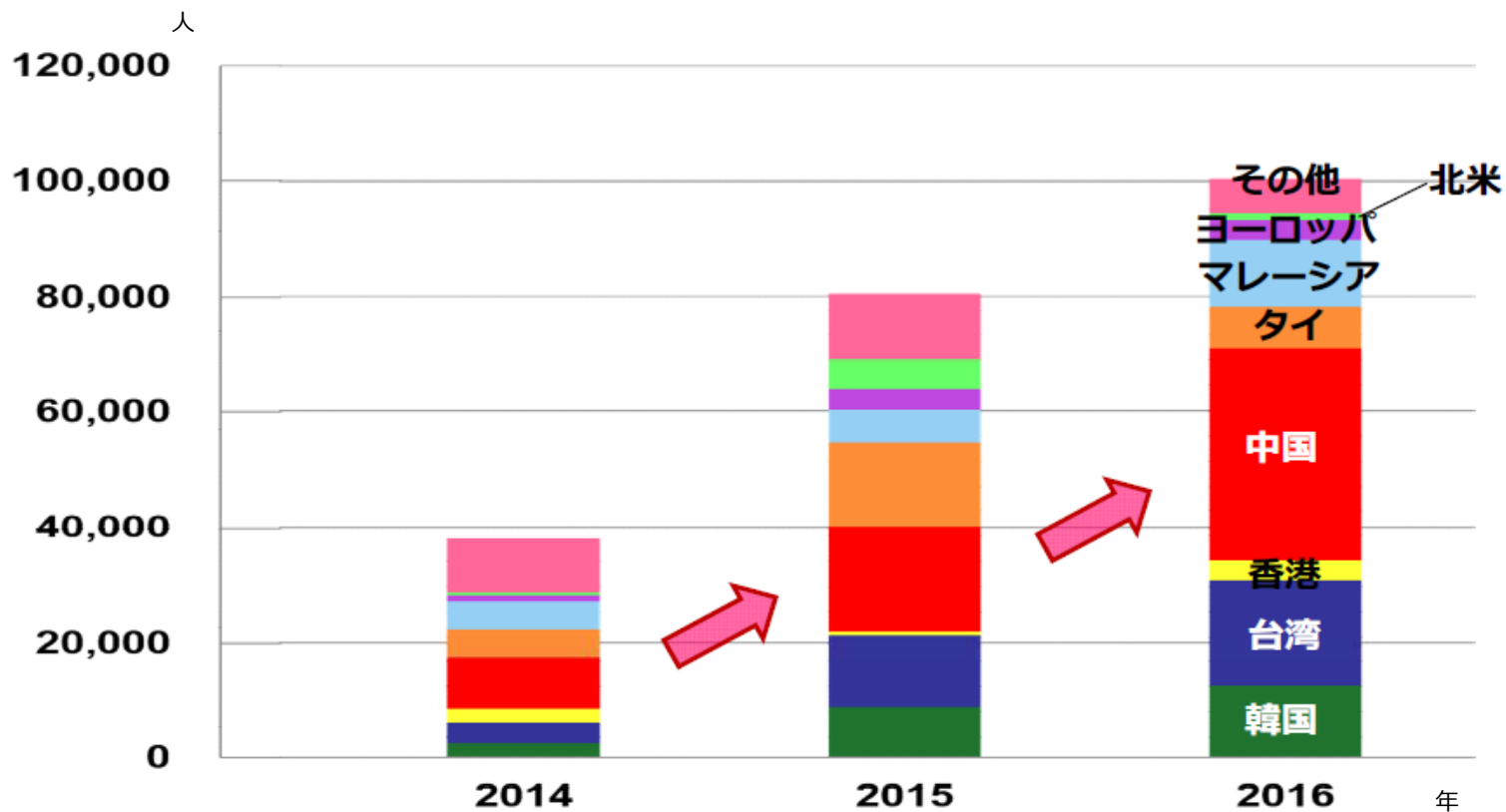
(3) 北海道内における国際会議の分野別開催状況



- 科学・技術・自然が概ね6割を占めている。
- 医学についても2割以上を占めている。

2 インセンティブ等の状況

(1) 日本国内におけるインセンティブ旅行の訪日外国人の推移（国別）



(出典) 「MICEの誘致・開催の取組みについて」平成30年5月観光庁

近年インセンティブ旅行による訪日外国人の数は増加しており、特に中国、台湾、韓国等のアジア圏からの伸びが顕著であり、今後も市場拡大が見込まれる。

(2) 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの特徴

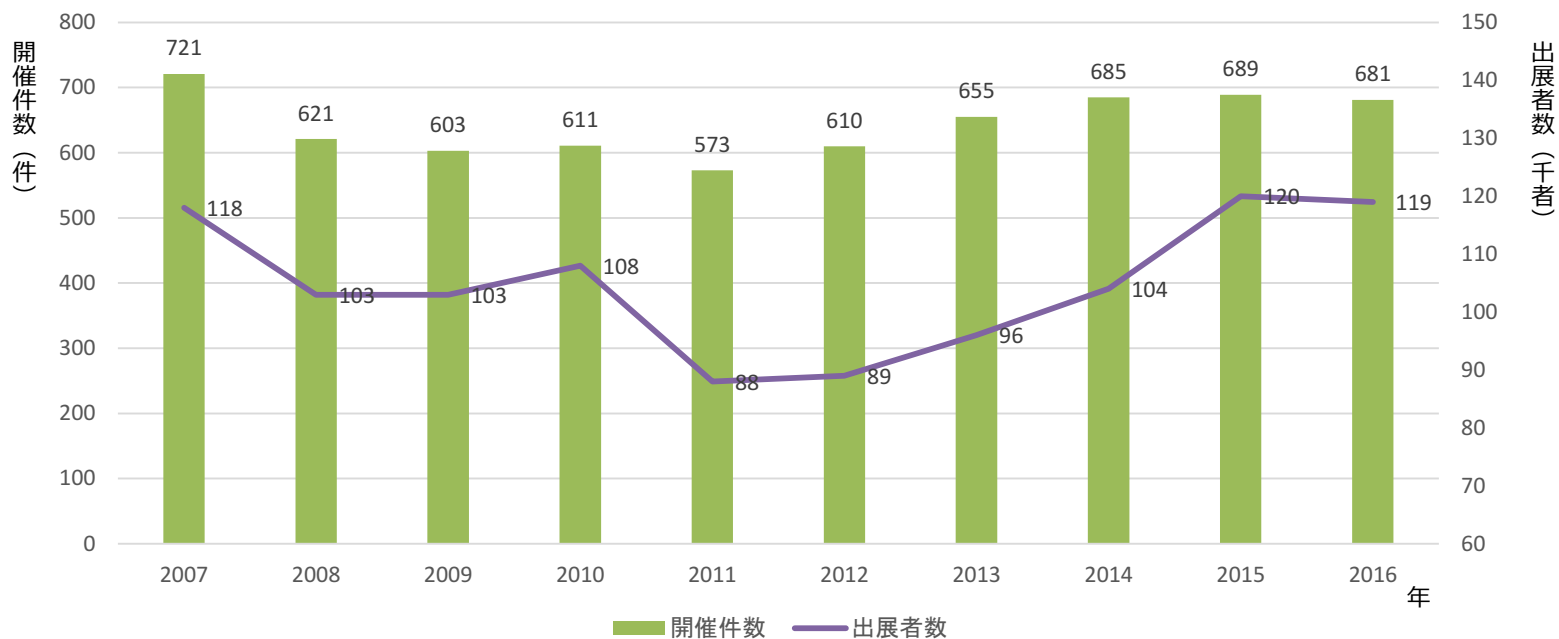
○ インセンティブ

- ・ 開催地は、札幌、小樽、登別、洞爺湖、留寿都といった都市や、有名な観光地が選ばれる例が多い。
- ・ 開催時期は、春から秋にかけて観光好適な時期が多い。東南アジアからのツアーでは冬の時期も選ばれている。
- ・ 宿泊施設は、ツアー客を受け入れる大規模施設を選ぶ事例が多い。部屋は広いほうが好まれ、和室の要望もある。
- ・ 主催者は、生命保険、化粧品、通販会社等の業種の事例が多い。
- ・ 参加者数は、30名から900名と幅広いが、1,000名を超えるツアーの場合には、移動、宿泊等の問題から、グループに分け数回で実施するケースがあった。
- ・ ツアーのルートは、札幌を起点にチャーターしたバスで道内各地へ移動し、札幌から帰国する例が多かった。
- ・ ツアー日程は、4日～6日程度が多い。ツアーの多くは、国外もしくは国内から直接札幌に飛行機で乗り入れ、短い期間で効率的にツアーを楽しむ、札幌中心の行程が組まれている。

○ ミーティング

- ・ 札幌を中心に開催場所が選定されている。M（ミーティング）の規模、参加者数、収容施設等を考えると、札幌となる場合が多い。参加者は札幌に空路で入るケースがほとんどのため、交通の面からも札幌に集中することになると推測される。
- ・ 会議室等の充実した施設のほか、気候、食事、交通の利便性も開催地選定の重視項目にあげられている。
- ・ 北海道ならではの地域が誇るものを策定し、海外の企業向けの具体的な提案をすべきとの意見、網羅的な情報提供が必要とする意見があった。

3 日本国内における展示会の開催件数



調査基準

- ・ 主催事務局への電話調査もしくはHPにより実数把握が可能なもの
- ・ 商談性の高い展示会
- ・ 一般来場者をターゲットにするイベントにおいても事務局が出展者への営業活動を展開しているもの
- ・ 企業単独のプライベートショーは除く

(出典) 公益財団法人日本交通公社「旅行年報」に基づき北海道作成

2011年以降は概ね増加傾向にあり、大規模MICE施設に誘致することにより、大きな経済効果が期待される。